

日本史授業プリント近代4 2 (114) 恐慌からの脱出と二・二六事件

2年 組 番 _____

世界恐慌後の日本経済 ☆政友会の1積極財政 …2高橋是清蔵相<犬養・斎藤・岡田内閣>

- A. 3禁輸出再禁止 と 4円兌換の停止 (5 1931. 12) = 金本位制から離脱
 ↳ 6管理通貨制度へ移行 予算の増額 →紙幣・赤字公債の発行→7インフレの進行
 ↳ 円為替相場下落=8円安 →9輸出の急増 <例>10綿織物は世界第1位
 ※11ドル買い事件…財閥等は、政友会内閣への交替→金輸出再禁止→急激な円安ドル高
 を予測して大量に円売り=ドル買いを実行し、その結果巨利を得た。

- B. 11軍事費の急増 …歳出の28%(1930)から47%(1936)へ -----
 ↳ 12重化学工業の発達 …131933年には繊維工業を上回る
 (a) 製鉄大合同…官営八幡製鉄所中心に民間製鉄会社を併合
 →14日本製鉄会社(1934)…半官半民の国策会社 鋼鉄の自給が可能に
 (b) 15新興財閥の台頭 →朝鮮・満州へ
 <例>16日本産業株式会社(17鮎川義介^{あいかわよしすけ})→18日産コンツェルン
 19日本窒素肥料会社(20野口 遵^{したがう})→21日窒コンツェルン
 22理研コンツェルン(大河内正敏)、23森コンツェルン、24日曹コンツェルンなど

結果 好況…251933年頃には大恐慌以前の生産水準を回復
 輸出 イギリスなど…日本の輸出急増を「26ソシアルーダンピング」(たたき売り)と批判
 高率関税で抵抗(27ブロック経済圏の強化)
 輸入 28アメリカへ依存…綿花、石油、屑鉄、機械、等々 ←重工業の発達

二・二六事件

29 斎藤実内閣 1932. 5~34. 7

- A. 無産政党(合法:社会民主主義)の右傾化(国家主義的傾向)
 社会民衆党(右派) → 日本国家社会党(1932)…赤松克麿ら 国家社会主義(天皇制重視)
 全国労農大衆党(中間派) → 30社会大衆党(1932) …政友会・民政党への対抗から陸軍に接近
- B. 共産党(非合法)の壊滅と31転向(~1935) 転向者続出 ←
 <例>32小林多喜二虐殺(1933)、野呂栄太郎獄中死(1934)、佐野学・鍋山貞親ら獄中で転向声明(1933)
 … プロレタリア文学 『蟹工船』 『一九二八年三月十五日』(三・一五事件を題材)
 ※33治安維持法と34特高(特別高等警察)による検挙・拷問・獄中死 →解釈の拡大
- C. 35滝川事件(1933) ※文部大臣鳩山一郎
 36滝川幸辰^{ゆきとぎ}(京大)の『37刑法読本』などの発禁と罷免…反国体的危険思想として
 →法学部全教授が抗議の辞表、学生も反対 →佐々木総一、末川博らも辞職

38 **岡田啓介** 内閣 1934. 7~36. 3 ←斎藤内閣は39帝人事件(疑獄事件)で総辞職

…斎藤内閣の海軍大臣 海軍大将・穩健派 ロンドン軍縮会議で尽力 与党：民政党

※これ以降、首相指名は 40重臣会議(元老西園寺+内大臣・枢密院議長・首相経験者ら)で

A. 『41国防の本義と其強化の提唱』(42陸軍パンフレット) 1934

「たたかいは創造の父、文化の母である」→以後、軍部は公然と政治介入

国際協調(軍縮)の否定 1934. 12 43ワシントン海軍軍縮条約の破棄をアメリカへ通告

1936. 1 第2次ロンドン軍縮会議から脱退

B. 44天皇機関説問題(1935) …貴族院で反国体的として問題化(不敬罪で告発)

→内閣、45国体明徴声明(1935)…「統治権の主体は天皇」と明言

46美濃部達吉(東大)は貴族院議員を辞任、47著書は発禁(『憲法撮要』『憲法講話』)

C. 陸軍内部 48統制派 …革新官僚(新官僚)と結び合法的手段での権力掌握 49民政党と接近

の対立  永田鉄山(軍務局長)・東条英機ら幕僚クラスが中心

50皇道派 …直接行動(クーデター)での政権奪取 大尉~少尉級が中心

真崎甚三郎(教育総監)・荒木貞夫らを首領 51政友会に接近

1934. 52十一月事件(士官学校事件)…統制派の摘発で皇道派逮捕 →真崎は陸軍教育総監を罷免

1935. 53相沢事件…皇道派将校相沢三郎らが、統制派の永田鉄山を暗殺

☆54 **二・二六事件** (551936. 2/26) ※2/20総選挙で政友会大敗

56皇道派の陸軍青年将校らが蜂起 兵士約1400名 57北一輝・西田 税^{みつぐ}らの思想的影響

「天皇親政」を目指し、首相官邸、警視庁などを襲撃、周辺一帯を占拠 ※東京に戒厳令

(58斎藤実(内大臣・前首相)、59高橋是清(蔵相)、渡辺錠太郎(陸軍教育総監)らを殺害

60鈴木貫太郎(侍従長)は重傷、61岡田啓介首相は辛うじて脱出

→反乱軍として3日後に鎮圧、将校は処刑(北一輝も)

→62陸軍内では皇道派が一掃され、統制派による支配強化

【正誤問題に挑戦】<1994年追試験、1995年本試験より>

- (1) 1930年代の軍事費の伸びは著しく、重化学工業を発達させ、日産や日窒などの新興財閥を急成長させた。○
- (2) 天皇親政を唱える皇道派の青年将校のクーデターにより、高橋是清・斎藤実らが暗殺され、政治のファシズム化が進んだ。○